



中村俊定文庫  
文庫 18  
1043



紙之芳野記

- 一 河紙河城歷代年數之事
  - 一 河紙連糸十句之事
  - 一 三芳野天祿 日係記
- 日寶物

奥村文庫



武之芳純

武後純

永保之慶中 年二月 一平永保 武後啓  
河越城と詔<sup>つ</sup>所<sup>り</sup>城を小久保<sup>り</sup>  
と<sup>り</sup>内<sup>り</sup>防衛<sup>の</sup>備と<sup>り</sup>た<sup>り</sup>趣<sup>を</sup>  
源<sup>に</sup>之<sup>を</sup>平<sup>し</sup>万<sup>り</sup>傷<sup>り</sup>城<sup>を</sup>  
兵<sup>を</sup>恙<sup>を</sup>

天正十八年 壬寅と云 兵部省に小田



系征伐の河越城より大退寺後行る  
東宗にけり氏政の重義子の事知  
して大退寺後行るに上利松枝の  
城指籠りけり松枝の城より法  
中仙百石の入りにて大退寺の口  
より松枝の城より松枝の城  
徳小田年三月十日系進討松枝  
の事おぬ衆利の上松系松系將と

先して真田小治政其の位列  
元合より多崎の確水城と  
越前松井田の城の中より  
諸の相より松枝の城より  
して城中の川より養子城の  
系一城と改めし事より松枝  
松枝の城より松枝の城より  
松枝の城より松枝の城より  
松枝の城より松枝の城より

——遠き——ぬ宗と松のる将  
相儀————い城と味方の足  
た————上列の——  
——運送——り中らるる至——  
——りねと——大石寺——  
あな——らねと兼儀——ぬ宗  
利——つ——降人——美東の  
守——と物と儀く大石寺

根城——り越々事か——  
——後少田宗と伴以て大石寺  
経何ら宗宗大岡寺の命——  
——江戸橋田小丸——切腹  
中何ら中松行りて今上——  
常樂寺——大石寺の石解れ又上列  
杉枝の城下——大石寺の古儀

天正十八庚寅年七月廿四日  
後園東八尺一系

大神君御願國より小信く河紙城の  
河井河内守年忠河紙より名く河紙  
城へ入部かり

河紙城年数歴代の事

長原元年丁丑冬田備中へ入る道長  
築  
天文六年丁酉迄八十年

の同扇若上松家六代の物謀かり

六世ハ持朝朝昌 政真朝憲 定正 朝良  
朝定 朝貞

此河の城代ハ右田及真日道灌合有  
別書外上田上野女家我母有

初右  
全存外

天文六丁酉年七月廿八日  
延享元年の同少藤家の物

城... 城... 少宗... 文... 細... 初...

少宗河... 河... 河... 河... 河... 河... 河... 河... 河... 河...

政... 同... 少宗... 合... 百... 千... 五... 年... 一...

天正十八年八月... 河... 升... 河... 内... 与...

重... 志... 彦... 方... 以... 後... 河... 城... 全... 野... 代... 畧... 之...

河... 城... 其... 城... 寛... 永... 十... 一... 申... 戌... 年... 相... 与...

虎... 之... 物... 隔... 升... 河... 城... 後... の... 同...

寛... 永... 十... 一... 申... 戌... 年... 水... 台... 河... 城... 全... 野... 代... 畧... 之... 相... 与...

向... 来... 忠... 神... 君... 河... 城... 全... 野... 代... 畧... 之... 相... 与...

十... 七... 同... 十... 六... 年... 十... 月... 廿... 九... 日... 同... 年... 十... 一... 月... 十... 一... 日... 同... 十...

十... 二... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十...

十... 七... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十...

十... 七... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十...

十... 七... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十...

十... 七... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十...

十... 七... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十...

十... 七... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十...

十... 七... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十... 一... 日... 同... 十...

少平長冬而為河越河越河越  
有しふ里先の伝かりしと云はれり  
其言と云はれり

又融云河越城は河越のまはりの  
三井原にありて一葉は河越城と  
上戸にありて一葉は河越城と  
云はれり云はれり云はれり  
記し曰上界に茲武到河越城者

上杉憲忠之臣太田氏道真初葉之  
上戸村之古城是也而後太田氏  
備中守資長入道道灌持資の徒之  
今河越城是也下略し伝と云らや  
傳し云はれり云はれり云はれり  
山内の上杉にありて一葉は河越城  
かゝ憲実ハ永平の紀の張也



たふふり其子の憲忠よりいふ方  
抄氏の可男成氏音名長源余均府の  
後平徳之年と根石系亮憲忠より  
係成より諸書小にいふ長源元年  
より二十年以前に憲忠の善死し  
憲忠は山内家右田良美の府人あり  
家元上口高三口藤野 下家の内よりいふ  
今上戸村の城係よりいふは舞弁村

上戸村の境の地を堀係の地と  
望国の城地よりいふは地味あり  
後一堡障の係より又上戸の古  
山内の陣屋よりいふは家後長源の記  
年よりいふは其の系下と安一考へ  
るより上戸の長源の記より山内  
陣屋より河越の府谷の城よりいふ事  
分明に中頃成良と山内家治との

時もよりのそりてハ宮城をけり  
宮好の守りふかり又天正十八年  
東海入國の時ハ戸田右門武利并  
河紙ハ河井彦をみるおれ  
今又的場村の地と之芳野の里  
之とよき入地と之の的場ハ之繁  
郡勿倫郡縣勿倫左園ホの事ハ  
古今古今の異同ハ

今河紙之芳野天井の地ハ千石の  
備北備北之方遠之方遠ノ野方の田ノ野方の田として  
東北南之方遠ノ野方の田として  
之東の古ノ野方の田として  
西の原の名所ハ行々ハ之芳  
野天井の条下小其能多  
河紙連之芳野の事ハ世々  
連之若流の從之千石

奥行ハ文明初の年のまを田た美  
号傳行在城中の事し十位心院口致  
備部信備字越法所信備の人と括て  
は紙りあつて連糸千句信ん  
是と河紙千句とり

千句第一

朝何 織物

梅園	まま	とる	ま	白	心	敬
庭	ふ	お	の	言	の	ま
その	齊	ハ	お	の	け	宗
井	池	ハ	お	の	け	中
か	ら	ハ	お	の	月	印
顔	お	の	け	ハ	長	敏
と	ら	ハ	お	の	言	永
予	ハ	お	の	入	り	義

草の平小入りきりぬしや  
不のふれぬむねの下の  
水んきり岩根く水小は  
改道くくふま月いりけり  
夏後

下畧

心敬十二方

長敏九氏

宗徳十二

中雅九信

印若八

長利十三氏

永祥七

義孫五氏

修哉八氏

瀧助十一氏

夏後一

義十一氏  
宗系入道于重枝友

道真十一

義以多孫のうらふ一むらり

千句才十の白人の名揚々向上畧

夏十一氏  
長敏

若十一氏  
宗徳

宗徳再い河紙一年八文二年

七月の紙一

宗徳修業託曰一年八年二氏



しきり巻行し 近き米穀作早々寺  
しきり巻行し

之芳野天神社に於て城中法有

条神 男神 女神 二座

後業年 菅科 合考

条。毎年 乙卯年 六月十九日

九月七日。十二月七日。

中古 引て二月廿七日 五月廿七日

遠近の古儀 祥系も 夥し

之芳野天神 俗記曰 林道春撰書八本河原之役画ハ  
徳田沖と無杉年信守位御慶言進

大日古 同事 海邊 武藏 國八万部川越

之芳野天神 八千 城天皇 大同年中 小

け社と 建言 たり 氷川の 明神と

一神 八岐の 大蛇と 御信と

大蛇 素戔嗚尊 たり けさ あり あり

一念 御言 あり 實現 宝飯 あり

尾の中〜〜 却〜〜 思ひを〜  
彼大蛇ハ千の穀の川と行られ  
たふ〜〜 氷川〜〜 や行畢ら  
〜 昔ハ高岡の大蛇と云ふ部小  
法詩中詩と也并成〜〜 支〜  
十八名の河〜〜 中巻

柞ツクシと河カハと名つ〜〜 昔  
純マコトと名ナ今イマ程ハヤ有アリ 左サ刀ヤとト琴コトと  
〜〜 女メ林ノ男ヲと相ア伴ハひ川ノと  
流ナ〜〜 中ナカ流リ〜〜 所トコロのナ名ナ  
〜〜 山ヤマのナ名ナ天アメ林ノのナ名ナ  
〜〜 在アるナ中ナカのナ名ナ業ノとト業ノとト業ノとト業ノとト  
〜〜 之ノ名ナ〜〜 之ノ名ナ〜〜 之ノ名ナ〜

いふは女の母らん屋敷ら  
しる中ね小あらん  
之き世し  
天ら

中ね業年

ふ  
多如由

業年中侍の

八九下

テ  
是も  
夏  
枕  
家  
路  
市





和月抄をくくしむるの若くは  
少師の本地より西に書きて  
のく其名はあつてしむるも  
一師をばりてや元と成るるも  
種々ぬの形と記しぬる記書の  
夏作を少師の方使しし知し牛春  
將軍家序ししむる流津を  
しむる少師の母と傳へし行は  
しむる

しむる流津を  
の年六月より八月に  
河原とくくしむる  
初丁の名所と記ししむる  
其折とたしむるは  
別人とくくしむるは  
流津と記ししむるは  
例のしむる初丁の

後城の楯竹布紙の後替有のしを延びて

之勢をうけしむるの事し其し

しりし所し其の事しこと

作られ而社の宮と其の終る終る神社や

將軍 河原有て若狭少将深志勝勝後

し作とて送營の事と斗てさふ

寛永元年甲子二月申午し事始

りし日甲子一月下旬して成就し

大工の及何某も斧とあしりたる

ととやしりたるしり人の皆おの

まじりたるしりたるしりたる

宮しりたるしりたるしりたる

外陣しりたるしりたるしりたる

のしりたるしりたるしりたる

之勢をうけしむるの事し其し

しりたるしりたるしりたる

あめりから小ねの陰に瑞籬久  
災いし多しなり 寛永二年近文の  
儀式是よりして存作を信正天梅  
吉口と名し二月廿六日信定と  
社殿とつくり 浮草と修も其作  
しやうふは其見聞のく 隠世の  
思ひとうんは 天神地祇も擁護  
の向とりし 法伴信定も感念の

心とりし 天下永年宝年之久の  
路と走りたまらん事 難ひありし  
可なり日お交政とあまふらせり  
神意の御文しきしとてしき  
従ア信下は従松平信直守海佐國守色也  
如く語りし 此の城と願もり付れ  
人の勢ふし 其威もりし  
神の徳もりし 其運もりし

事と心く成給ふ法下道春小隊記の  
伺と概しぬ速く令して後宗の  
業と保を利高法下宗海河岡  
梨くさ川に奉進し行ひ急減し  
忽して四ヶ所をく不敵とん  
少くも心成門無業より保を延の  
保ありし林の威徳いぬめとん  
しるくさ

寛安二年正月廿六日

南方記傳曰

正平廿四乙未年 北朝建安二年尚ル 新田左衛門大  
衛門尉泰成上野國雄弁小幡の正月  
百歩崎く武藏國く古江新田の一族  
同く兵以下多崎走せ加し之好野小  
陣とい時桃井宗綱文村く給く  
今方の軍く利得しぬとん接る

赤洞窟と内陣（赤洞窟）と納めし（赤洞窟）云々

（赤洞窟）今内陣（赤洞窟）の洞窟

と云々 吾々其美と云々（赤洞窟）神祕深遠

保（赤洞窟）保（赤洞窟）

赤洞窟（赤洞窟）河城（赤洞窟）右田（赤洞窟）灌

流（赤洞窟）と依（赤洞窟）後（赤洞窟）廣福寺（赤洞窟）と云々

寛永元年

御之代將軍家 河城（赤洞窟）道雲（赤洞窟）の旨

廣福寺と後（赤洞窟）之芳（赤洞窟）山（赤洞窟）と相沈（赤洞窟）廣福寺

号（赤洞窟）一 天宗（赤洞窟）赤多院（赤洞窟）未（赤洞窟）と云々

河城（赤洞窟）と依（赤洞窟）後（赤洞窟）の初（赤洞窟）明曆二

西甲年（赤洞窟）一 以内（赤洞窟）相平（赤洞窟）伊重（赤洞窟）廣福寺（赤洞窟）山

の河城（赤洞窟）道雲（赤洞窟）の古（赤洞窟）又（赤洞窟）河城

河城（赤洞窟）と依（赤洞窟）後（赤洞窟）今（赤洞窟）と河城

の産（赤洞窟）の依（赤洞窟）後（赤洞窟）と云々

河城（赤洞窟）初（赤洞窟）と河城（赤洞窟）地（赤洞窟）産（赤洞窟）と云々

後亦現く〜十〜  
西鏡云協士

石切 明王 年沙中地

棋紅丸は書大里の社 後新座中

天海信正の免状之馬

武藏國入間郡三芳野里者

天満天神之説居無其隠名所良

有所以者并因茲

征夷大將軍家光公御再與之寺社

異他靈跡云故從往古号廣福寺

今亦新号三芳山高松院令補入東郡

星野山喜多院直未畢者自今以後

不肖本寺之下知天下安全御祈禱

佛事勤行不可有怠慢者也

寛永三十年正月十七日

山門三院執行探題大僧正天海

伊予守

別當之松院中興用山宗海河内關前

唐移寺之同卷  
年曆之件

社領武平六石九斗五升

臨白村

寺井之村

板下村

町今方

今仙波村(今方)

樓門額之芳野天社 佑之親書

樓上洪鐘一口 銘文略

導師大住都監者

寛文元辛巳曆十二月如意珠日

治工

兼海法印  
藤原重正

書院内佛 不動明王安置

神樂殿 石水盤

紅梅の老樹 伊豆守信保屋地ゆふ木

この社殿木多し

初雁

三十一のや天とこのやこれ秋のころ  
しつらふわらうのころとて

し経母書言

寛文元辛巳曆十二月如意珠日  
正盛親苗山詠



奇進宝物之部

一 田一所川 立後光親  
之加賀守所

堀田加賀守正盛

一文巻

堀田と一帝

一 天神御新

植松左馬

一 一頓靴

堀田儀之

一 蔭陰御祝箱 少左兵衛

岡庄右馬

石永寛永十三年二月の奇進状

但し一帝は正盛侯の男植松堀田岡庄の家と

一 天満宮名号一幅 後湯成院之行卷

一 馬玉 推定所  
ナクタク 一 唐園扇

一 二俣升 一 唐版一枚

一 蛇之卵 一 風多 一 比翼多

一 大野多之角 一 南蛮圓の枕

一 海多 イハ 一 雲南玉の石

一 法親筆 一 唐本花生の祝言

一 唐本花生の布袋 一 海多の角

- テレイヨシ
- 鈴石
- 蟹ノ角
- 鶴卵石
- 甲貝
- カホキヤ石
- 相生之靈芝
- 硬碱
- 九官の貝
- 約之角
- 太刀一柄
- 太刀一柄
- 可細達
- 南都大安寺

一 鈴石

一 甲貝

一 硬碱

一 九官の貝

一 太刀一柄

一 太刀一柄

一 可細達

一 南都大安寺

信長之遺物

備前長吉

可細達

但希ハ二品親王

奉納

中村氏吉連

一本堂所天祚係純之卷

大島北菅原信祐

石信祐の正徳三年

河内ノ下

斎の聖廟と毫升

けし係純

とりのん能高小速奇具の事  
おのふ実柳 柳系 余ハ 畧  
と

之芳野天林夜解

上流

天爵敬撰

天芳の降之芳林

靈源氣氣瑞雲卷

依然雄鎮城隍祠

朱簾畫棟縹碧瓦

圍繞松以樹爵森々

凌霜侵雪幾年也

野夫擊壤穀豈穰

無窮成德象羣下

藩侯代々能敬茶

禋祀以時無苟具

騷人遠在角川濱

浩歌神德援筆寫

わ〜〜の洞〜〜る角〜〜

角川 活源

〜〜系〜〜又〜〜のや針の柳

草部 燕志

之芳の〜〜のまや柳〜〜

春務

林凡小葉の葉〜〜や柳〜〜

之候

柳のふ香も天降るま柳も

冷水

林松や落〜〜の月

秋毫

林松や色〜〜の九百年

冠又

物モノも文モノも字モノも 神カミの田タ由ユ大オホ備ヒ如コト  
系ケイも平ヘイも梅ウメの白シロひや神カミの色イロ 雙スウ經ケイ  
紅ベニ青アヲ帶オビ梅ウメとトいイふフてテ神カミの傷キズ 七ナナ步フ  
と梅ウメもモいイふフのノ多タ少シウひヒちチりリが 十ジュウ田タ  
紅ベニ年ネンも一イツ飲インふフりリや人ヒトも生ナマ 其ソノ經ケイ也ヤ  
又マタ信シユのノ名ナはハいイはハれレ梅ウメのノ系ケイ是コト也ヤ其ソノ意イはハれレ也ヤ  
神カミ垣ケのノ紅ベニ隈ケはハいイはハれレ也ヤ 小コ文モノもモいイふフ 茂モウ行コウ  
之ノ芳ホウ野ノ純ジュン年ネン

一

五

七

